システム制御工学 || フィードバック制御系の設計

フィードバック vs フィードフォワード フィードバック制御系の安定性 12/03 中間試験

> > ▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ■ ●の00

01/28 期末試験

ちょっと復習

有界入力有界出力安定性

フィードバック制御系の安定性



安定性の定義(フィードバック制御系の有界入力有界出力安定性) 任意の有界入力 w, r に対する出力 z, u が有界

定理 (フィードバック制御系の有界入力有界出力安定性) フィードバック制御系が有界入力有界出力安定性となる必 要十分条件は,四つの伝達関数 G_{zw}(s),G_{zr}(s),G_{uw}(s), G_{ur}(s) がすべて有界入力有界出力安定であることである

定理 (フィードバック制御系の有界入力有界出力安定性) フィードバック制御系が有界入力有界出力安定性となる必 要十分条件は, $\phi(s) = D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s) = 0$ のす べての根の実数部が負であることである

有界入力有界出力安定性

フィードバック制御系の安定性

$$P(s) = \frac{N_p(s)}{D_p(s)} \qquad C(s) = \frac{N_c(s)}{D_c(s)}$$

$$G_{zw}(s) = \frac{D_c(s)N_p(s)}{D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s)} \quad G_{zr}(s) = \frac{N_c(s)N_p(s)}{D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s)}$$
$$G_{uw}(s) = \frac{-N_c(s)N_p(s)}{D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s)} \quad G_{ur}(s) = \frac{N_c(s)D_p(s)}{D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s)}$$

(フィードバック制御系は有界入力有界出力安定) ⇔ (四つの伝達関数 G_{zw}(s), G_{zr}(s), G_{uw}(s), G_{ur}(s) が すべて有界入力有界出力安定)

 \Leftrightarrow $(D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s) = 0$ のすべての根の実数部が負)

漸近安定性

フィードバック制御系の安定性



$$\begin{bmatrix} \dot{x}_p(t) \\ \dot{x}_c(t) \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} A_p - B_p D_c C_p & B_p C_c \\ -B_c C_p & A_c \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_p(t) \\ x_c(t) \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} B_p & B_p D_c \\ 0 & B_c \end{bmatrix} \begin{bmatrix} w(t) \\ r(t) \end{bmatrix}$$
$$\begin{bmatrix} z(t) \\ u(t) \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} C_p & 0 \\ -D_c C_p & C_c \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_p(t) \\ x_c(t) \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} 0 & 0 \\ 0 & D_c \end{bmatrix} \begin{bmatrix} w(t) \\ r(t) \end{bmatrix}$$
$$\begin{bmatrix} x_p(t_0) \\ x_c(t_0) \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} x_{p0} \\ x_{c0} \end{bmatrix} \quad t \ge t_0$$

漸近安定性

フィードバック制御系の安定性

$$\begin{bmatrix} \dot{x}_p(t) \\ \dot{x}_c(t) \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} A_p - B_p D_c C_p & B_p C_c \\ -B_c C_p & A_c \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_p(t) \\ x_c(t) \end{bmatrix} \qquad \begin{bmatrix} x_p(0) \\ x_c(0) \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} x_{p0} \\ x_{c0} \end{bmatrix} \quad t \ge 0$$

安定性の定義(フィードバック制御系の漸近安定性) 任意の初期条件

$$\begin{bmatrix} x_p(0) \\ x_c(0) \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} x_{p0} \\ x_{c0} \end{bmatrix}$$

に対する零入力応答が

$$\begin{bmatrix} x_p(t) \\ x_c(t) \end{bmatrix} \to \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix}$$

定理 (フィードバック制御系の漸近安定性) フィードバック制御系が漸近安定となる必要十分条件は, 行列 $\begin{bmatrix} A_p - B_p D_c C_p & B_p C_c \\ -B_c C_p & A_c \end{bmatrix}$ のすべての固有値の実数部 が負となることである

フィードバック制御系の安定性



(フィードバック制御系は漸近安定) \Leftrightarrow $(行列 \begin{bmatrix} A_p - B_p D_c C_p & B_p C_c \\ -B_c C_p & A_c \end{bmatrix}$ のすべての固有値の実数部が負) \Rightarrow $(D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s) = 0$ のすべての根の実数部が負) \Leftrightarrow (フィードバック制御系は有界入力有界出力安定)

◆□▶ ◆□▶ ◆□▶ ◆□▶ □ ○ ○ ○

ここまで復習

▲□▶ ▲圖▶ ▲≣▶ ▲≣▶ = のへで

システム制御工学 || フィードバック制御系の設計

フィードバック vs フィードフォワード フィードバック制御系の安定性 12/03 中間試験

> > ▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ■ ●の00

01/28 期末試験

◆□▶ ◆□▶ ◆三▶ ◆三▶ 三三 - のへで

$$P(s) = \frac{K\omega_n^2}{s^2 + 2\zeta\omega_n s + \omega_n^2}$$
$$K = 1 \quad \omega_n = 10 \quad \zeta = 0.5$$
$$C(s) = \frac{k}{s} \qquad k = 1$$



$$P(s) = \frac{K\omega_n^2}{s^2 + 2\zeta\omega_n s + \omega_n^2}$$
$$K = 1 \quad \omega_n = 10 \quad \zeta = 0.5$$
$$C(s) = \frac{k}{s} \qquad k = 1$$



▲□▶ ▲□▶ ▲臣▶ ★臣▶ = 臣 = のへで









◆□▶ ◆□▶ ◆三▶ ◆三▶ 三三 - のへで









◆□▶ ◆□▶ ◆目▶ ◆目▶ 目 のへぐ



$$P(s) = \frac{K\omega_n^2}{s^2 + 2\zeta\omega_n s + \omega_n^2}$$
$$K = 1 \quad \omega_n = 10 \quad \zeta = 0.5$$
$$C(s) = \frac{k}{s} \qquad k = 1, 3$$



◆□▶ ◆□▶ ◆臣▶ ◆臣▶ ─臣 ─のへで









◆□▶ ◆□▶ ◆臣▶ ◆臣▶ ─臣 ─のへで



$$P(s) = \frac{K\omega_n^2}{s^2 + 2\zeta\omega_n s + \omega_n^2}$$
$$K = 1 \quad \omega_n = 10 \quad \zeta = 0.5$$
$$C(s) = \frac{k}{s} \qquad k = 1, 3, 9$$



◆□ > ◆□ > ◆豆 > ◆豆 > ̄豆 - のへで









◆□▶ ◆□▶ ◆目▶ ◆目▶ ▲□ ◆ ��や

システム制御工学 || フィードバック制御系の設計

フィードバック制御系の安定性

11/26 中間試験

ナイキストの安定判別法 ナイキストの安定判別法: 準備 ナイキストの安定判別法: 使い方 ナイキストの安定判別法: 導出 簡略化されたナイキストの安定判別法 安定余裕: ゲイン余裕と位相余裕

ループ整形法によるフィードバック制御系の設計

二自由度制御系

01/28 期末試験

ナイキストの安定判別法: 準 備

$$P(s) = \frac{N_p(s)}{D_p(s)} \qquad C(s) = \frac{N_c(s)}{D_c(s)}$$

$$G_{zw}(s) = \frac{P(s)}{1 + P(s)C(s)} \qquad G_{zr}(s) = \frac{P(s)C(s)}{1 + P(s)C(s)}$$

$$= \frac{D_c(s)N_p(s)}{D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s)} \qquad = \frac{N_c(s)N_p(s)}{D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s)}$$

$$G_{uw}(s) = -\frac{C(s)P(s)}{1 + C(s)P(s)} \qquad G_{ur}(s) = \frac{C(s)}{1 + C(s)P(s)}$$

$$= \frac{-N_c(s)N_p(s)}{D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s)} \qquad = \frac{N_c(s)D_p(s)}{D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s)}$$

- ▲日 > ▲ 国 > ▲ 国 > ▲ 国 > ろんの

ナイキストの安定判別法:準備

$$P(s) = \frac{N_p(s)}{D_p(s)} \qquad C(s) = \frac{N_c(s)}{D_c(s)}$$

開ループ伝達関数
$$L(s) = P(s)C(s) = \frac{N_c(s)N_p(s)}{D_c(s)D_p(s)}$$

 $\mathbf{A} \mathbf{T} ()$

▲□▶ ▲□▶ ▲ □▶ ▲ □▶ ▲ □ ● ● ● ●

NT ()

$$1 + L(s) = 1 + P(s)C(s) = 1 + \frac{N_p(s)}{D_p(s)} \frac{N_c(s)}{D_c(s)} = \frac{D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s)}{D_c(s)D_p(s)}$$

ナイキストの安定判別法: 準 備

$$P(s) = \frac{N_p(s)}{D_p(s)} \qquad C(s) = \frac{N_c(s)}{D_c(s)}$$

開ループ伝達関数
$$L(s) = P(s)C(s) = \frac{N_c(s)N_p(s)}{D_c(s)D_p(s)}$$

AT ()

 $\mathbf{N}T(\mathbf{)}$

$$1 + L(s) = 1 + P(s)C(s) = 1 + \frac{N_p(s)}{D_p(s)} \frac{N_c(s)}{D_c(s)} = \frac{D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s)}{D_c(s)D_p(s)}$$

閉ループ極: $D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s) = 0$ の根 開ループ極: $D_c(s)D_p(s) = 0$ の根

◆□▶ ◆□▶ ◆ 臣▶ ◆ 臣▶ 三臣 - ∽ � � �

例題 13.1, 13.2

開ループ極: $D_c(s)D_p(s) = 0$

$$P(s) = \frac{1}{(s+0.1)(s+1)} \qquad C(s) = \frac{1}{s}$$

 $D_p(s)D_c(s) = (s+0.1)(s+1) \times s$ 開ループ極: -1, -0.1, 0

$$P(s) = \frac{1}{s-1}$$
 $C(s) = \frac{s-1}{s+1}$
 $D_p(s)D_c(s) = (s-1) \times (s+1)$ 開ループ極: -1, 1

◆□▶ ◆□▶ ◆ □▶ ◆ □▶ ○ □ ○ ○ ○ ○

ナイキストの安定判別法: 準 備

$$P(s) = \frac{N_p(s)}{D_p(s)} \qquad C(s) = \frac{N_c(s)}{D_c(s)}$$
$$1 + L(s) = 1 + P(s)C(s) = \frac{D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s)}{D_c(s)D_p(s)}$$

37 ()

閉ループ極: $D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s) = 0$ の根 開ループ板: $D_c(s)D_p(s) = 0$ の根

▲ロ ▶ ▲周 ▶ ▲ 国 ▶ ▲ 国 ▶ ● の Q @

ナイキストの安定判別法: 準 備

$$P(s) = \frac{N_p(s)}{D_p(s)} \qquad C(s) = \frac{N_c(s)}{D_c(s)}$$

1 + L(s) = 1 + P(s)C(s) = $\frac{D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s)}{D_c(s)D_p(s)}$

 $\mathbf{N}T$ ()

NT ()

閉ループ極:
$$D_c(s)D_p(s)+N_c(s)N_p(s)=0$$
の根
開ループ極: $D_c(s)D_p(s)=0$ の根

知りたい: 閉ループ極のうち,不安定なものの個数 Z 知っている: 開ループ極のうち,不安定なものの個数 P システム制御工学 || フィードバック制御系の設計

フィードバック制御系の安定性

11/26 中間試験

ナイキストの安定判別法 ナイキストの安定判別法: 準備 ナイキストの安定判別法: 使い方 ナイキストの安定判別法: 導出 簡略化されたナイキストの安定判別法 安定余裕: ゲイン余裕と位相余裕

ループ整形法によるフィードバック制御系の設計

二自由度制御系

01/28 期末試験

$$1 + L(s) = 1 + P(s)C(s) = \frac{D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s)}{D_c(s)D_p(s)}$$

知りたい: 閉ループ極のうち,不安定なものの個数 Z 知っている: 開ループ極のうち,不安定なものの個数 P

▲□▶ ▲□▶ ▲三▶ ▲三▶ 三三 のへで







$1 + L(s) = 1 + P(s)C(s) = \frac{D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s)}{D_c(s)D_p(s)}$

知りたい: 閉ループ極のうち,不安定なものの個数 Z 知っている: 開ループ極のうち,不安定なものの個数 P

・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・

$$1 + L(s) = 1 + P(s)C(s) = \frac{D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s)}{D_c(s)D_p(s)}$$

知りたい: 閉ループ極のうち,不安定なものの個数 Z 知っている: 開ループ極のうち,不安定なものの個数 P

ナイキストの安定判別法: N = Z - P

▲□▶ ▲□▶ ▲三▶ ▲三▶ 三三 のへで

ナイキストの安定判別法

- 手順 1 $D_p(s)D_c(s) = 0$ の根 (開ループ極) のうち, 不安定なもの の個数 P を数える.
- 手順 2 開ループ伝達関数のベクトル軌跡 $L(j\omega)$, ω は 0 から ∞ の範囲, を描く.
- 手順3 手順2 での軌跡と実軸対象な軌跡を描き $L(j\omega), \omega$ は $-\infty$ から0の範囲, をえる. これでナイキスト軌跡が描かれた.
- 手順4 ナイキスト軌跡が点 -1 + j0 の周りを時計回りに回転する回数 N を数える.ただし、反時計回りの回転は負の数として数える.
- 手順5 N = Z P であり、フィードバック制御系は Z 個の不安 定極をもつ. Z = 0 ならばフィードバック制御系は安定で ある.

$$P(s) = \frac{1}{s+1} \qquad C(s) = 1 \qquad L(s) = P(s)C(s) = \frac{1}{s+1} \times 1 = \frac{1}{s+1}$$

•
$$D_p(s)D_c(s) = (s+1) \times 1$$
 不安定な開ループ極の数: $P = 0$

(4日) (個) (主) (主) (三) の(の)



• $D_p(s)D_c(s) = (s+1) \times 1$ 不安定な開ループ極の数: P = 0

▲□▶▲圖▶▲圖▶▲圖▶ = ● のQの



D_p(s)D_c(s) = (s + 1) × 1 不安定な開ループ極の数: P = 0
 ナイキスト軌跡が点 -1 + j0 を回る回数: N = 0
 N = Z - P Z = 0: フィードバック制御系は安定

$$P(s) = \frac{1}{(s+1)^2} \qquad C(s) = \frac{k}{s+0.1}$$
$$L(s) = P(s)C(s) = \frac{1}{(s+1)^2} \times \frac{k}{s+0.1} = \frac{k}{(s+0.1)(s+1)^2}$$

• $D_p(s)D_c(s) = (s+1)^2 \times (s+0.1)$ 不安定な開ループ極の数: P = 0

▲□▶ ▲□▶ ▲ 三▶ ▲ 三▶ 三三 - のへぐ

 $P(s) = \frac{1}{(s+1)^2} \qquad C(s) = \frac{k}{s+0.1}$ $L(s) = P(s)C(s) = \frac{1}{(s+1)^2} \times \frac{k}{s+0.1} = \frac{k}{(s+0.1)(s+1)^2}$





・ロト・西ト・ヨト・ヨー シタぐ







a k = 1 の場合

b k = 2.4 の場合

Im

 $\omega = +\infty$ $\omega = -\infty$

►Re

c k = 3 の場合





b k = 2.4 の場合

c k = 3 の場合


a k = 1 の場合

b k = 2.4 の場合

c k = 3 の場合









c k = 3 の場合

▲□▶ ▲□▶ ▲三▶ ▲三▶ 三三 のへで

$$P(s) = \frac{1}{s-1} \qquad C(s) = \frac{s-1}{s+1}$$
$$L(s) = P(s)C(s) = \frac{1}{s-1} \times \frac{s-1}{s+1} = \frac{1}{s+1}$$

•
$$D_p(s)D_c(s) = (s-1) \times (s+1)$$

不安定な開ループ極の数: *P* = 1

▲□▶▲圖▶▲≣▶▲≣▶ ≣ のQ@

 $P(s) = \frac{1}{s-1} \qquad C(s) = \frac{s-1}{s+1}$ $L(s) = P(s)C(s) = \frac{1}{s-1} \times \frac{s-1}{s+1} = \frac{1}{s+1}$ Im -1 + j0 $\omega = -\infty$ $\omega = 0 - \omega$

• $D_p(s)D_c(s) = (s-1) \times (s+1)$

不安定な開ループ極の数: P = 1

▲□▶ ▲□▶ ▲三▶ ▲三▶ 三三 のへ⊙



- $D_p(s)D_c(s) = (s-1) \times (s+1)$ 不安定な開ループ極の数: P = 1• ナイキスト軌跡が点 -1 + j0を回る回数: N = 0
- N = Z P Z = 1: フィードバック制御系は不安定

システム制御工学 || フィードバック制御系の設計

フィードバック制御系の安定性

11/26 中間試験

ナイキストの安定判別法 ナイキストの安定判別法: 準備 ナイキストの安定判別法: 使い方 ナイキストの安定判別法: 導出 簡略化されたナイキストの安定判別法 安定余裕: ゲイン余裕と位相余裕

ループ整形法によるフィードバック制御系の設計

二自由度制御系

01/28 期末試験

$1 + L(s) = 1 + P(s)C(s) = \frac{D_c(s)D_p(s) + N_c(s)N_p(s)}{D_c(s)D_p(s)}$

知りたい: 閉ループ極のうち,不安定なものの個数 Z 知っている: 開ループ極のうち,不安定なものの個数 P

ナイキストの安定判別法: N = Z - P

▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ■ ●の00

$$1 + L(s) = 1 + P(s)C(s) = \frac{N_p(s)N_c(s) + D_p(s)D_c(s)}{D_p(s)D_c(s)}$$
$$= \frac{(s - z_1)\cdots(s - z_n)}{(s - p_1)\cdots(s - p_n)}$$

閉ループ極:
$$z_1, \ldots, z_n$$
 開ループ極: p_1, \ldots, p_n

知りたい: z_1, \ldots, z_n のうち,不安定なものの個数 Z知っている: p_1, \ldots, p_n のうち,不安定なものの個数 P

▲ロ ▶ ▲周 ▶ ▲ 国 ▶ ▲ 国 ▶ ● の Q @

$$F(s) = 1 + L(s) = 1 + P(s)C(s) = \frac{(s - z_1)\dots(s - z_n)}{(s - p_1)\dots(s - p_n)}$$



Figure: 閉曲線 C 上を時計回りに 1 周する変数 \bar{s} とその時の像

$$\angle F(\bar{s}) = \angle (s - z_1) + \dots + \angle (s - z_n) - \angle (s - p_1) = \dots \angle (s - p_n) = \dots$$

閉曲線 *C* で囲まれる領域に 1 つの零点 *z*₁ だけが含まれている:



Figure: $\angle(\bar{s} - z_1)$ の総変化量は $-360 [\deg]$

閉曲線 C が零点を 1 つのみ囲んでいる \Rightarrow $F(\bar{s})$ は原点を時計回りに 1 回転

$$\angle F(\bar{s}) = \angle (s - z_1) + \dots + \angle (s - z_n) - \angle (s - p_1) - \dots \angle (s - p_n)$$

閉曲線 C で囲まれる領域の内部に Z 個の零点のみが含まれている:

閉曲線 C が零点を Z 個のみ囲んでいる \Rightarrow $F(\bar{s}) は原点を時計回りに <math>Z$ 回転

 $\angle F(\bar{s}) = \angle (s - z_1) + \dots + \angle (s - z_n) - \angle (s - p_1) - \dots \angle (s - p_n)$

◆□▶ ◆□▶ ◆三▶ ◆三▶ 三三 のへぐ

閉曲線 C で囲まれる境域に 1 つの極 p_1 だけが含まれている:

閉曲線 C が極を 1 つのみ囲んでいる \Rightarrow $F(\bar{s})$ は原点を時計回りに -1 回転

 $\angle F(\bar{s}) = \angle (s - z_1) + \dots + \angle (s - z_n) - \angle (s - p_1) - \dots \angle (s - p_n)$

◆□▶ ◆□▶ ◆三▶ ◆三▶ 三三 のへぐ

閉曲線 C で囲まれる境域に Z 個の零点と P 個の極が含まれている:

閉曲線 C が零点を Z 個, 極を P 個囲んでいる \Rightarrow $F(\bar{s})$ は原点を時計回りに Z-P 回転

 $\angle F(\bar{s}) = \angle (s - z_1) + \dots + \angle (s - z_n) - \angle (s - p_1) - \dots \angle (s - p_n)$

◆□▶ ◆□▶ ◆三▶ ◆三▶ 三三 のへぐ

$$F(s) = 1 + L(s) = 1 + P(s)C(s) = \frac{(s - z_1)\dots(s - z_n)}{(s - p_1)\dots(s - p_n)}$$

知りたい: z_1, \ldots, z_n のうち,不安定なものの個数 Z知っている: p_1, \ldots, p_n のうち,不安定なものの個数 P



閉曲線 C が Z 個の零点と P 個の極を囲んでいる:

N = Z - P

システム制御工学 || フィードバック制御系の設計

フィードバック制御系の安定性

11/26 中間試験

ナイキストの安定判別法 ナイキストの安定判別法: 準備 ナイキストの安定判別法: 使い方 ナイキストの安定判別法: 導出 簡略化されたナイキストの安定判別法 安定余裕: ゲイン余裕と位相余裕

ループ整形法によるフィードバック制御系の設計

二自由度制御系

01/28 期末試験

$$P(s) = \frac{N_p(s)}{D_p(s)} \qquad C(s) = \frac{N_c(s)}{D_c(s)}$$

開ループ極: $D_c(s)D_p(s) = 0$ の根

◆□▶ ◆□▶ ◆臣▶ ◆臣▶ 善臣 - のへで

$$P(s) = rac{N_p(s)}{D_p(s)}$$
 $C(s) = rac{N_c(s)}{D_c(s)}$ 開ループ極: $D_c(s)D_p(s) = 0$ の根

知っている: 開ループ極のうち,不安定なものの個数 P = 0あるいは

◆□ > ◆□ > ◆豆 > ◆豆 > ̄豆 = のへで

$$P(s) = \frac{N_p(s)}{D_p(s)} \qquad C(s) = \frac{N_c(s)}{D_c(s)}$$

開ループ極: $D_c(s)D_p(s) = 0$ の根

知っている: 開ループ極のうち,不安定なものの個数 P = 0あるいは

知っている: 開ループ極に, 0 が一つだけ, 残りは安定

$$P(s) = rac{1}{s+1}$$
 + $C(s) = rac{s-2}{s(s+10)}$ (使える)
 $C(s) = rac{s-2}{s^2}$ (使えない)

▲□▶ ▲□▶ ▲ 三▶ ▲ 三▶ 三 のへぐ

$$P(s) = \frac{1}{s+1} \qquad C(s) = 1 \qquad L(s) = P(s)C(s) = \frac{1}{s+1} \times 1 = \frac{1}{s+1}$$

•
$$D_p(s)D_c(s) = (s+1) \times 1$$
 不安定な開ループ極の数: $P = 0$

(4日) (個) (主) (主) (三) の(の)



• $D_p(s)D_c(s) = (s+1) \times 1$ 不安定な開ループ極の数: P = 0

▲□▶▲圖▶▲圖▶▲圖▶ = ● のQの



D_p(s)D_c(s) = (s + 1) × 1 不安定な開ループ極の数: P = 0
 ナイキスト軌跡が点 -1 + j0 を回る回数: N = 0
 N = Z - P Z = 0: フィードバック制御系は安定

$$P(s) = \frac{1}{(s+1)^2} \qquad C(s) = \frac{k}{s+0.1}$$
$$L(s) = P(s)C(s) = \frac{1}{(s+1)^2} \times \frac{k}{s+0.1} = \frac{k}{(s+0.1)(s+1)^2}$$

• $D_p(s)D_c(s) = (s+1)^2 \times (s+0.1)$ 不安定な開ループ極の数: P = 0

▲□▶ ▲□▶ ▲ 三▶ ▲ 三▶ 三三 - のへぐ

 $P(s) = \frac{1}{(s+1)^2} \qquad C(s) = \frac{k}{s+0.1}$ $L(s) = P(s)C(s) = \frac{1}{(s+1)^2} \times \frac{k}{s+0.1} = \frac{k}{(s+0.1)(s+1)^2}$





・ロト・西ト・ヨト・ヨー シタぐ







a k = 1 の場合

b k = 2.4 の場合

Im

 $\omega = +\infty$ $\omega = -\infty$

►Re

c k = 3 の場合





b k = 2.4 の場合

c k = 3 の場合



a k = 1 の場合

b k = 2.4 の場合

c k = 3 の場合









c k = 3 の場合

▲□▶ ▲□▶ ▲三▶ ▲三▶ 三三 のへで

開ループ極:
$$D_c(s)D_p(s) = 0$$
の根

知っている: 開ループ極のうち、不安定なものの個数 P=0あるいは

知っている: 開ループ極に,0が一つだけ,残りは安定



a 常に左手に見ているので 安定



a 常に左手に見ているので 安定 b 右手に見ることがあるので 不安定

簡略化されたナイキストの安定判別法

手順 1 $D_p(s)D_c(s) = 0$ の根 (開ループ極) に不安定なものがない こと, あるいは s = 0 の極が 1 つだけで, 他はすべて安定 極であることを確認する.

手順 2 開ループ伝達関数のベクトル軌跡 $L(j\omega), \omega \ge 0$ を描く.

手順 3 ベクトル軌跡が, 点 -1 + j0 を常に左手に見れば, フィー ドバック制御系は内部安定, そうでなければ不安定となる。

$$P(s) = \frac{1}{(s+0.1)(s+1)} \qquad C(s) = \frac{k}{s} \quad k = 1$$
$$L(s) = P(s)C(s) = \frac{1}{(s+0.1)(s+1)} \times \frac{k}{s} = \frac{k}{s(s+0.1)(s+1)}$$

•
$$D_p(s)D_c(s) = s(s+0.1)(s+1)$$
 開ループ極は 0, 残りは安定

▲□▶ ▲圖▶ ▲≣▶ ▲≣▶ = ● ● ●



a k = 1 の場合

- $D_p(s)D_c(s) = s(s+0.1)(s+1)$ 開ループ極は 0, 残りは安定
- ベクトル軌跡は点 -1 + j0 を右手に見て原点へと収束. 安定ではない.

$$P(s) = \frac{1}{(s+0.1)(s+1)} \qquad C(s) = \frac{k}{s} \quad k = 0.08$$
$$L(s) = P(s)C(s) = \frac{1}{(s+0.1)(s+1)} \times \frac{k}{s} = \frac{k}{s(s+0.1)(s+1)}$$



a k = 1 の場合

•
$$D_p(s)D_c(s) = s(s+0.1)(s+1)$$
 開ループ極は 0,残りは安定

◆□▶ ◆□▶ ◆ 臣▶ ◆ 臣▶ ○ 臣 ○ の Q @





a k = 1の場合 b k = 0.08の場合 c k = 0.08の場合 図

D_p(s)D_c(s) = s(s + 0.1)(s + 1)
 ボクトル軌跡は点 -1 + j0 を左手に見て原点へと収束、安定.

システム制御工学 || フィードバック制御系の設計

フィードバック制御系の安定性

11/26 中間試験

ナイキストの安定判別法 ナイキストの安定判別法: 準備 ナイキストの安定判別法: 使い方 ナイキストの安定判別法: 導出 簡略化されたナイキストの安定判別法 安定余裕: ゲイン余裕と位相余裕

ループ整形法によるフィードバック制御系の設計

二自由度制御系

01/28 期末試験

安定余裕:ゲイン余裕と位相余裕

簡略化されたナイキストの安定判別法



a 常に左手に見ているので 安定

b 右手に見ることがあるので 不安定

◆□▶ ◆□▶ ◆三▶ ◆三▶ ○三 の々⊙

安定余裕:ゲイン余裕と位相余裕



ヘロト 人間 とくほ とくほ とう

æ.

安定余裕: ゲイン余裕と位相余裕



ゲイン交差周波数 $\omega_{\rm gc}$: $|L(j\omega_{\rm gc})| = 1$ となる周波数 ω 位相交差周波数 $\omega_{\rm pc}$: $\angle L(j\omega_{\rm pc}) = -180 \deg$ となる周波数 ω

A D > A P > A B > A B >

э

安定余裕:ゲイン余裕と位相余裕



ゲイン交差周波数 $\omega_{
m gc}$: $|L(j\omega_{
m gc})| = 1$ となる周波数 ω

▲□▶ ▲□▶ ▲三▶ ▲三▶ 三三 のへで

安定余裕: ゲイン余裕と位相余裕



ゲイン交差周波数 $\omega_{
m gc}: |L(j\omega_{
m gc})| = 1$ となる周波数 ω

▲ロ ▶ ▲周 ▶ ▲ 国 ▶ ▲ 国 ▶ ● の Q @

安定 $|L(j\omega_{gc})| = 1$ のときに, $\angle L(j\omega_{gc}) > -180$ deg もっと位相が遅れても大丈夫: 位相余裕


ゲイン交差周波数 $\omega_{
m gc}$: $|L(j\omega_{
m gc})| = 1$ となる周波数 ω

▲ロ ▶ ▲周 ▶ ▲ 国 ▶ ▲ 国 ▶ ● の Q @

安定 $|L(j\omega_{gc})| = 1$ のときに, $\angle L(j\omega_{gc}) > -180 \deg$ もっと位相が遅れても大丈夫: 位相余裕 不安定 $|L(j\omega_{gc})| = 1$ のときに, $\angle L(j\omega_{gc}) < -180 \deg$



位相交差周波数 $\omega_{
m pc}$: $\angle L(j\omega_{
m pc}) = -180 \deg$ となる周波数 ω

▲□▶ ▲□▶ ▲三▶ ▲三▶ 三三 のへで



位相交差周波数 $\omega_{
m pc}$: $\angle L(j\omega_{
m pc}) = -180 \deg$ となる周波数 ω

安定
$$\angle L(j\omega_{
m pc}) = -180$$
 deg のときに, $|L(j\omega_{
m pc})| < 1$ もっとゲインが大きくなっても大丈夫: ゲイン余裕

▲□▶▲圖▶▲≧▶▲≧▶ 差 のへ⊙



位相交差周波数 $\omega_{
m pc}:$ $\angle L(j\omega_{
m pc})=-180$ deg となる周波数 ω

安定 $\angle L(j\omega_{\rm pc}) = -180 \deg$ のときに, $|L(j\omega_{\rm pc})| < 1$ もっとゲインが大きくなっても大丈夫: ゲイン余裕 不安定 $\angle L(j\omega_{\rm pc}) = -180 \deg$ のときに, $|L(j\omega_{\rm pc})| > 1$

▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ □ のQで



a ベクトル軌跡での読み取り



b ボード線図での読み取り

▲□▶ ▲圖▶ ▲園▶ ▲園▶ 三国 - 釣A@











ゲイン交差周波数 $\omega_{
m gc}: \quad |L(j\omega_{
m gc})| = 1$ となる周波数 ω



a 安定







位相交差周波数 $\omega_{\rm pc}$: $\angle L(j\omega_{\rm pc}) = -180 \deg$ となる周波数 ω



a ベクトル軌跡での読み取り



b ボード線図での読み取り

▲□▶ ▲圖▶ ▲園▶ ▲園▶ 三国 - 釣A@

$$P(s) = \frac{1}{(s+1)^2} \qquad C(s) = \frac{0.5}{s}$$

D_p(s)D_c(s) = (s+1)²×s
 法が適用できる

簡略化されたナイキストの安定判別

(ロ)、



D_p(s)D_c(s) = (s+1)²×s
 法が適用できる

簡略化されたナイキストの安定判別

< □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □ > < □

$$P(s) = \frac{1}{(s+1)^2} \qquad C(s) = \frac{k}{s+0.1}$$
$$L(s) = P(s)C(s) = \frac{1}{(s+1)^2} \times \frac{k}{s+0.1} = \frac{k}{(s+0.1)(s+1)^2}$$

• $D_p(s)D_c(s) = (s+1)^2 \times (s+0.1)$ 不安定な開ループ極の数: P = 0

▲□▶ ▲□▶ ▲ 三▶ ▲ 三▶ 三三 - のへぐ

 $P(s) = \frac{1}{(s+1)^2} \qquad C(s) = \frac{k}{s+0.1}$ $L(s) = P(s)C(s) = \frac{1}{(s+1)^2} \times \frac{k}{s+0.1} = \frac{k}{(s+0.1)(s+1)^2}$





・ロト・西ト・ヨト・ヨー シタぐ







a k = 1 の場合

b *k* = 2.4 の場合

Im

 $\omega = +\infty$ $\omega = -\infty$

►Re

c k = 3 の場合





b k = 2.4 の場合

c k = 3 の場合



a k = 1 の場合

b k = 2.4 の場合

c k = 3 の場合









c k = 3 の場合

▲□▶ ▲□▶ ▲三▶ ▲三▶ 三三 のへで



◆□▶ ◆□▶ ◆臣▶ ◆臣▶ 善臣 - のへで

◆□▶ ◆□▶ ◆三▶ ◆三▶ 三三 - のへで

$$P(s) = \frac{K\omega_n^2}{s^2 + 2\zeta\omega_n s + \omega_n^2}$$
$$K = 1 \quad \omega_n = 10 \quad \zeta = 0.5$$
$$C(s) = \frac{k}{s} \qquad k = 1$$



$$P(s) = \frac{K\omega_n^2}{s^2 + 2\zeta\omega_n s + \omega_n^2}$$
$$K = 1 \quad \omega_n = 10 \quad \zeta = 0.5$$
$$C(s) = \frac{k}{s} \qquad k = 1$$



▲□▶ ▲□▶ ▲臣▶ ★臣▶ = 臣 = のへで









◆□▶ ◆□▶ ◆三▶ ◆三▶ 三三 - のへで









◆□▶ ◆□▶ ◆目▶ ◆目▶ 目 のへぐ



$$P(s) = \frac{K\omega_n^2}{s^2 + 2\zeta\omega_n s + \omega_n^2}$$
$$K = 1 \quad \omega_n = 10 \quad \zeta = 0.5$$
$$C(s) = \frac{k}{s} \qquad k = 1, 3$$



◆□▶ ◆□▶ ◆臣▶ ◆臣▶ ─臣 ─のへで









◆□▶ ◆□▶ ◆臣▶ ◆臣▶ ─臣 ─のへで



$$P(s) = \frac{K\omega_n^2}{s^2 + 2\zeta\omega_n s + \omega_n^2}$$
$$K = 1 \quad \omega_n = 10 \quad \zeta = 0.5$$
$$C(s) = \frac{k}{s} \qquad k = 1, 3, 9$$



▲□ > ▲圖 > ▲目 > ▲目 > ▲目 > ● ④ < ⊙









◆□▶ ◆□▶ ◆目▶ ◆目▶ ▲□ ◆ ��や

システム制御工学 || フィードバック制御系の設計

フィードバック vs フィードフォワード フィードバック制御系の安定性 12/03 中間試験

> > ▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ■ ●の00

01/28 期末試験